

学林舎情報

NO. 188

共創ネットワーク

●発行日：2018年3月17日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

発行：教材出版 学林舎



2018年教育の行き先 2018年度の中学入試を総括

関西圏では1月13日の統一解禁日を皮切りに、2018年度の中学入試が行われました。今年度も午後入試を含む短期決戦型の日程となり、15日までの三日間に主要な入試日程が集中しました。

関西圏（二府四県）の全日程の総応募者数は昨年度より1.02%増加して56,438人、統一入試日の1月13日午前からの応募者数は昨年度より1.28%減少して17,190人となりました。応募率は9.79%となり（総応募者数を二府四県の公立小学校在籍者数で割って算出）、四年連続で上昇していますが、受験者数の実態に近い統一入試日の応募者数は、少子化に伴い三年連続で減少しています。

今春の入試で注目したいのは、大学入試改革を見据えた動向です。大学までの進路が保証されている大学の付属校、グローバル教育やICT教育などを積極的に取り入れ教育改革を推進している学校、そして大学合格実績の堅調な学校に人気が集まりました。関関同立の主要系列校では、立命館系列校と同志社女子中学校を除き、関西大学第一中学校、関西学院中等部、啓明学院中学校、同志社香里中学校、同志社中学校などの学校で応募者数が軒並み増加しています。また、昨年共学化して二年目となる高槻中学校では1,858人（昨年比312人増、前期日程は89人増の573人）の応募となりました。スーパーサイエンスハイスクールとスーパーグローバルハイスクールとしての取り組みに加え、大阪医科大学・大阪薬科大学との法人合併による高大連携企画への期待、新キャンパスの整備など、積極的な学校改革による人気が集まる増加につながったものと考えられます。一方、最難関校においては神戸女学院中等部と西大和学園中学校が微減となりましたが、灘中学校、甲陽学院中学校、大阪星光学院中

学校、洛南高等学校附属中学校、東大寺学園中学校、四天王寺中学校などの学校で応募者数が増加し、最難関校の人気は根強いと言えます。

また、昨年も話題を呼んだ適性検査型入試は、新たに滝川中学校や上宮学園中学校が参入し、約20校の実施となりました。公立中高一貫校との併願を見込んだことや入試会場・入試日程などにより、親和中学校、滝川第二中学校、近大附属和歌山中学校では多くの応募があった反面、事前の告知不足や、受験生および家庭に十分理解が得られていなかったために、想定した受験者数を集められなかった学校もありました。

公立中高一貫校では、京都府立洛北高等学校附属中学校（応募倍率3.8倍）、京都市立西京高等学校附属中学校（応募倍率4.6倍）、神戸大学附属中等教育学校（実質倍率男子5.7倍、女子8.1倍）の人気が依然と続いています。

首都圏では2月1日から、東京都・神奈川県で主要中学校の入試が行われました。

首都圏（一都三県）の2月1日午前の受験者数は、昨年度より0.7%増加して37,864人、応募率は13.7%（総応募者数を一都三県の公立小学校在籍者数で割って算出）となりました。しかし、1月10日が解禁日となった埼玉県、1月20日が解禁日となった千葉県の私立中学校だけを受験した児童や、公立中高一貫校だけを受験した児童もいるため、それらを含めると受験率はさらに高いものになります。1月は学校数に対して入試期間が長いため、日程や通学時間などの条件が合えば複数の学校を受験することができ、一人あたりの出願校数は関西圏より多くなっています。

今春の入試で注目したいのは、大学附属校・系列校の応募者数の増加と学校改革を積極的に推進している学校の人気です。早稲田大学と慶應義塾大学の附属校・系列校は、ともに応募者数が増加しました。2015年、文部科学省は首都圏に学生が集中している状況を打開するため、募集定員を上回る私大への補助金をカットする方針を打ち出しました。2016年から段階的に定員超過数が厳格化されてきており、特に難関私立大学の合格者数はすでに大幅に削減されています。この影

響を受け、大学受験を避けて附属中から進学する動きが加速し、その結果、難関私学附属校・系列校の倍率が上昇しています。一方、単に系列大学に入学できるという理由だけではなく、スーパーサイエンスハイスクールやスーパーグローバルハイスクールに指定されている学校も多いこと、多くの学校で国公立大学への進路変更に対応していること、高大連携のプログラムなども人気の要因だと考えられます。また、今春の入試で人気を集めた渋谷教育学園幕張中学校、渋谷教育学園渋谷中学校、広尾学園などは、都内でも数少ない共学校であることに加えグローバル教育への期待もあり、応募者数の増加につながったものと考えられます。

公立中高一貫校も依然人気が高く、神奈川県では県立相模原中等教育学校（応募倍率男子 7.5%、女子 8.5%）、東京都では都立小石川中等教育学校（応募倍率男子 6.9%、女子 6.1%）が高い人気を得ています。

出題傾向は、関西圏・首都圏ともに全体的には大きな変化は見られず、過年度を踏襲したうえで、一部新傾向問題を織り交ぜて出題されました。算数では、「数に関する問題」「立体図形」の出題がやや増加傾向にあります。最難関校では、単なる知識やセンスではなく様々な角度から考えることが求められる出題も見られた反面、難関校では典型題の出題が依然多くなっています。国語では、流行の作家の作品が今年も多く出題されました。説明文では、岡田美智男著「〈弱いロボット〉の思想」、池谷裕二著「できない脳ほど自信過剰」など、ロボットや脳科学をテーマにした文章が複数校で見受けられました。その他、自然科学や哲学をテーマとした文章も出題されています。物語文では、近年よく出題されている、重松清、辻村美月、瀬尾まいこ、森絵都などの作品が今春も引き続き数多くの学校で出題されました。出題形式は各校とも過年度の出題形式を踏襲したものとなりました。理科では、新学習指導要領が示されたことで、具体的な記載のあった内容に出題が集中しました。物理分野では、「てこ」「浮力」「電気回路」の出題が増加しました。また、「音」と「圧力」の単元が追加され、それらを題材とした出題も見られました。化学分野では、「気体の性質」「溶解度」の出題が増加しました。生物分野では、「人体」単元から、地学分野では、「気象」単元からの出題が増加しました。難関校では典型題の出題が続きましたが、最難関校ではさらに掘り下げた、実験に伴う一連の作業の意図や操作の手順などを、作図や記述で求めるといった出題も見受けられ、一部最難関校では思考実験

型の出題も見られました。社会では、例年と変わらず基本的な知識を問う問題がベースとなります。その上で、学校のタイプにより、処理力を求める問題と差がつく問題（漢字指定や記述式、時事問題の対策や思考力問題など）のバランスによって各学校の特色が出ています。特に差がつく問題では、単なる知識ではなく関連する内容を説明できるようにすることや、世の中の出来事に関心を持ち、自分なりの考えを持つことなどが重要になっています。（文 / 学林舎編集部）

2018年教育の行き先 教科書のデジタル化の状況

ICT 環境が整備された現代社会において、日常生活や仕事でデジタル機器を利用することは必要不可欠となりました。小中学校でもコンピュータを使った授業が行われています。現在、教科書は紙の本として提供されることが前提ですが、授業の一部として映像を見たり、音楽を聴いたり、紙以外の補助教材を使うことは、これまでもありました。文部科学省は 2020 年の学習指導要領改訂の際に、デジタル教科書の本格導入を目指しています。そうすると近い将来、紙の教科書はなくなり、デジタル教科書が全面的に使われるようになるのでしょうか。文部科学省が公表した『学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果』では、デジタル教科書をすでに「整備している」と答えた学校は、小学校で 52.1%、中学校で 58.2%、高等学校で 12.5%でした。これは、児童生徒自身が利用するデジタル教科書だけではなく、電子黒板等のデジタル教材も含まれています。では、デジタル教科書などの教材を利用することで、どのようなメリットがあるのでしょうか。

デジタル教科書は、児童生徒それぞれが使うものと教師が使うものに分けられます。前者はタブレット端末など児童生徒個人が利用できるもの、後者は電子黒板やプロジェクタなどで表示し画面等を共有するものです。紙の教科書にも、写真やグラフをはじめ、たくさんの情報が掲載されていますが、デジタル教科書では、これらに加えて映像や音などの情報を扱うことができます。自動車の生産の様子を映像で紹介すること（社会）や単語の発音を確認すること（英語）などは、従来の紙の教科書では扱えなかった情報です。現在の

の教科書でも、副教材として DVD や CD が使われていますが、教科書の中に組み込まれたものではないので、あくまで別の教材です。つまり、デジタル教科書における映像や音などは、紙の教科書の代替となるものではなく、補助教材としての位置づけと言えます。また、写真や教科書の誌面を電子黒板に拡大して表示したり、教科書に直接書き込む様子を画面に映したりすることもできます。紙の教科書と同じ誌面がデジタルデータとして販売されている教科書もあります。

デジタル教科書導入までの問題点もたくさんあります。まず、すべては ICT 環境が整っていることを前提としています。現在、紙の教科書は原則無償提供されていますが、デジタル教科書を利用するために必要なデジタル機器は、個人や自治体が費用を負担しなければなりません。しかし、電子黒板や児童生徒用のタブレット端末などは、まだ十分に普及しているとは言えません。タブレット端末の購入費用を個人に負担するように求める自治体もあれば、独自に ICT 環境の整備を進めている自治体もあります。そのほか、健康面についての議論も行われています。デジタル教科書の多くはタブレット端末や電子黒板で提供されるため、児童生徒は授業時間中にディスプレイを見続けることとなります。現代人の多くは普段から長時間ディスプレイを見続けています。デジタル教科書が使われるようになると、家ではテレビやゲーム、スマートフォンなどのディスプレイを見て、さらに学校でもデジタル教科書を利用するためにディスプレイを見ることとなります。これが児童生徒にどれほどの影響を与えるのかについては、『「デジタル教科書」の位置付けに関する検討会議 最終まとめ』の中で「一定の期間を経た後に改めて検討を行うことが適当」とされており、今後も継続的な研究が必要です。また、タブレット端末で情報を検索する際には、フィルタリングや接続管理等のセキュリティ面での整備も必要です。端末の故障などのトラブルに対応できる体制も整えておく必要があります。

デジタル教科書が導入されることで、これまでの学習内容が大きく変わるということはありません。学びの主役は児童生徒自身であり、学びを通して豊かな知識を身につけていくという基本的な教育姿勢が変わりはありません。デジタル教科書は、よりよい環境でより効率的に児童生徒が主体性を持って学び続けることを手助けするツールなのです。(文 / 学林舎編集部)

2018年教育の行き先 資格検定試験の 価値と意味を考える

現在、日本では 1,000 を超える資格試験、技能検定が行われています。その中には、中学生・高校生でも受検可能な資格試験、技能検定もあります。今回は中学生・高校生が多く受検する 3 つの検定試験を取りあげて、資格試験、技能検定を受検することの価値とその意味について考えます。

■日本漢字能力検定

「漢検」の略称で知られる日本漢字能力検定は、漢字能力を測定することを目的とした漢字技能検定です。公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施しており、年間 200 万人以上が受検しています。

高校受験・大学受験においては、「読むこと」、「書くこと」という漢字の基本的な知識だけではなく、漢字の意味を正しく理解して文章の中で適切に使うことができるかが重要となります。また、漢字能力は国語の学習だけでなく、数学・英語・理科・社会の学習においても、基礎学力や、問題文を読み解く力に繋がると考えられています。

漢検を受検することで漢字に親しみが持て、語彙力の向上も期待できます。昨今では、パソコンやスマートフォンの普及により漢字の読み書きが苦手な若者が増えたと言われています。特に「書き」については苦手な人が増えており、多くの人々にとって読むことができるけれど書くことができない漢字が増えているようです。語彙力が豊富な方が、就職活動などの面接の際にしっかりと志望動機を伝えることができるので、早い時期から漢字に親しみ、慣れておくことで、就職活動が有利になると考えられています。

■実用数学技能検定（数学検定・算数検定）

数学検定は、数学・算数の実用的な技能である計算・作図・表現・測定・整理・統計・証明の技能を測定することを目的とした記述式の検定です。公益財団法人日本数学検定協会が実施しており、年間 30 万人以上が受検しています。

学習指導要領改訂で、平成 14 年度から実施された「ゆとり教育」により、数学的思考力のみならず、計算能力の低下が大きく報道され注目を集めました。数

学検定は学習指導要領の変遷にとらわれず、出題範囲・内容ともに一定の水準を保っており、数学の基礎学力を測る客観的な尺度として注目を集めています。また、数学を学ぶことで、筋道を立てて考える「論理的思考力」や、文章問題で問われていることを導き出す「読解力」などが身につけられると考えられています。

■実用英語技能検定

英語の検定「英検」として有名なのが、公益財団法人日本英語検定協会が実施している実用英語技能検定です。英検は小学生から社会人まで幅広い年齢層が受験しており、年間の受検者数は300万人を超えます。

英検は英語の4つの技能「読む」「聞く」「書く」「話す」のバランスを重視しており、社会で求められる実用的な英語の能力を測定することができます。日常会話からビジネスシーンでの会話まで、英語を使ったコミュニケーション能力の向上を目指すことが目的です。また、試験は筆記とリスニングに分かれており、センター試験で実施されるリスニングテストの対策として受験する高校生も増えています。

これらの3つの検定は、特定の階級に合格することで大学・短期大学・高等学校などの入学試験での受験科目の免除や、試験の得点がプラスになるなどの優遇措置を受けることができます。この資格試験、技能検定の利点が活かせるかどうかは、受験する際には、学校の試験制度を確認する必要があります。

(文 / 学林舎編集部)

クロスロード Crossroad

第79回 文／吉田 良治

● マートンが3.11 東日本大震災に寄せた思い

東日本大震災発生から今年で7年となりました。改めてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、亡くなられた方々のご遺族にお悔やみを申し上げ、今も被災地で生活をされていた方々、さらに被災地を離れ生活をされている方々にお見舞い申し上げます。

東日本大震災から7年、3月11日にマット・マートンが2つのツイートを送信しました。

<https://twitter.com/mmurton9/status/972658034521575424>

<https://twitter.com/mmurton9/status/972658098476285953>

マートンから今回の東日本大震災のツイートについてメールがありました。シンプルに、“日本を愛している！”と書かれていました。2015年は広島での3連戦中、8月6日に平和記念式典に参列、2014年は日本シリーズ前日と8月末の6連戦中、彼は2度西成のホームレスへ炊き出しに参加、2011年には追手門学院大学でライフスキルの授業を実施、さらにチームの勝利1勝につき50キロのお米を東日本大震災被災地へ送り、2010年はシーズン中に小児病院へ慰問と、機会があれば社会の問題にしっかり目を向け、マートン自身が必要なアクションを起こしてきました。野球選手である前に一人の人間として、あるべき姿を彼は示しました。それは日本を離れて3年が経った今も日本のことを思い、メッセージという形でアクションを起こしています。

実は2011年3月12日に読売新聞の企画で、マートンとアスリート教育について対談する予定でした。結局前日に東日本大震災が起り、対談は延期になり企

画そのものが成立するか、それどころではないという事態になりました。しかしマートンはこの企画の重要性を理解し、翌4月に広島で対談を実現させました。そしてその年の夏に読売新聞で7回連載、私もマートンとの対談録を基に著書『日本の大学に入ると、なぜ人生を間違えるのか』を執筆し、マートンが大学時代に学んだトータル・パーソン・プログラムというアスリート教育を紹介しました。そして本の発売日は2015年3月11日でした。3月11日はマートンと色々な縁がありました。

2020年に東京で五輪・パラリンピックが開催されまです。東京五輪・パラリンピック開催地決定を受け安倍首相は、“2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、東日本大震災からの復興を見事に成し遂げた日本の姿を、世界の中心で活躍する日本の姿を、世界中の人々に向けて力強く発信していく。それこそが今回の東京開催決定への感謝の気持ちを表す最善の道であるとそう考えます。”と発言されました。復興五輪を掲げる今回のオリンピックには、開催費の高騰で多額の税金が使われ、震災復興が後回しになるのでは！との懸念が高まりました。

真の復興五輪とは何でしょう？マートンの母校ジョージア工科大学のあるアトランタにそのヒントがありました。1996年アトランタ五輪・パラリンピックでは、ジョージア工科大学をはじめ地元大学のスポーツ施設を活用し、選手村は大会後学生寮になりました。つまり、競技施設などの建設費はその大部分を大学が負担し、公的な資金の投入はほとんどありませんでした。そして今も多くの施設がレガシーとして活用されています。

ジョージア工科大学のOBのジミー・カーター元大統領は93歳の今も金槌を握り、低所得者や災害被災者のためにボランティアで家を建てています。人として社会の中でどうあるべきか、国のリーダーがその姿を先頭に立って示すから、国民は社会の問題について、当事者意識をもって正しい行動をとります。トータルパーソンという、教養を基にした総合的な人間力は、リーダーの正しい方向性と実践により生まれ、社会を豊かにする原動力となります。(つづく)

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ロースボウルに出場し、ロースボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した。ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。
全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した。ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog
<http://ameblo.jp/outside-the-box/>